別所小の窓

さいたま市立大宮別所小学校
令和５年度１１月号　児童数７６７名
TEL 048-667-3633　FAX 048-667-8770
https://omiyabessho-e.saitama-city.ed.jp/

未来を生き抜く

校長　神田　朋恵

10月２日～４日の２泊３日、５年生のたかつえ自然の教室がありました。「野外炊飯と川魚さばきでご飯を作るのは大変だったけど、みんなと一緒に作ると楽しいということを実感しました。魚をさばくのは大変だったけど、友達と教え合うことで上手にさばくことができました。やり遂げたという気持ちですっきりしました。ナイトハイクで怖がりながら前に進んだことや消灯時間まで友達としゃべったりしたこと、全部楽しかった思い出ばかりです。この３日間は、友達と一緒の、自然の中でしかできない、貴重な体験になりました。」

自然の中での生活は普段よりも厳しく、生活面を全て自分自身で、または友としなくてはならないことは、子どもたちの想定以上に大変なことでした。「自然に触れ、協力して学び合おう！メリハリをつけ、ルールを守って行動しよう！」とのスローガンを考え、事前に５分前行動が基本と確認してあるにも関わらず、最初は守ることができませんでした。でもその小さな失敗おかげで、自らやろうと意識を変革し、それを友と共有し、皆で高め合い、鍛え合おうとする姿が徐々に見受けられるようになりました。大きな成長を感じた瞬間（とき）でした。

６年生の修学旅行、４年生の社会科見学、３年生の消防車見学、２年生の町探検、１年生の秋探しも然りです。百聞は一見に如かず。体験的に学ぶことにより培われる心の力は逞しいものがあります。

10月27日（金）指導訪問がありました。年に一度、全教員が授業を公開し、市の教育委員会担当者から指導を受けるというものです。

日々参観している授業において、男女問わない少人数で互いのタブレットを見合いながら、時に相手のタブレットを指して話している姿は、背丈こそ小学生であれ、まるで大学生のように感じます。特に高学年は教室の席も自由に、ある時は床に座り込んで話している子もいます。でも、授業から離れてはいません。男女の区別なく話す姿と、担当教員の指示のもと席も自由に動いて話している姿は、初めて見た時なかなか衝撃的でした。その少人数は固定にならないのか。仲間外れは出ないのか。一人ぼっちの子はいないのか。時間が経つにつれ、どのクラスでもその問題は杞憂であることがわかりました。一人の子も一人で学ぶことを選んでいるのです。「自分で学び方を決める」まさしく現代（いま）のスタイルです。そして、この授業スタイルをとることのできるこの地域の子どもたちは、なんて素直な子たちなんだと実感したしだいです。それは、今回の指導訪問でもお墨付きをいただきました。保護者・地域の皆様がそのように子どもたちを大切に慈しみ育ててくださっているのです。

丁寧に育てられた子どもは、優しく、幼い表情を見せます。素直に何でも吸収しようとします。そんな子どもたちに、時代に即した教え方で、まだ見ぬ未来という時代を生き抜く力、知恵を付ける。この一心で、我々は授業の研究をしています。

皆様、今月も子どもたちを導くパートナーとして、どうぞよろしくお願いいたします。